

# イー歯トープ 8020 歯と口のハテナ

① 県歯科医師会

歯科医療は、虫歯と歯周病という歯科2大疾患の予防と治療、そして入れ歯やブリッジなどの装置によって、噛む機能の維持回復に成果を挙げてきました。

高齢化社会に対応した歯科保健の取り組みとしては、1989年から現在まで、80歳になっても20本の歯を残すために生涯を通じた健康づくりに取り組もう、また20本の歯を残せなくとも入れ歯など治療を受けて食べる機能を回復しよう、という80

## 健康づくりに励もう

020運動を続けてきました。

超高齢化社会においては、診療所・病院完結型の「治す医療」に加えて、地域コミュニティに支えられた「暮らしの中の医療」の重要性が増しています。日本歯科医師会は、8020運動とともに「生きがいを支える歯科医療」を地域住民と一緒に実践することを10年前に掲げ、

した。

わが国の公的医療保険制度は、1922年の健康保険法の制定に始まる100年近い歴史があり、国民皆保険制度の確立からは半世紀以上たちます。しかし、今から10年後には、団塊の世代が後期高齢者となり介護医療費などの急増が懸念され「2025年問題」に直面し

## 連載にあたって

佐藤 保



ます。その先には人口の減少問題が控えており、社会保障制度を維持するための取り組みが急がれます。

岩手県歯科医師会は、歯科医療の充実によって、食べる、話す、笑うという「生活」の質の向上が、超高齢社会において求められると考えています。県歯科医師会は来年で設立100年を迎えます。8020運動を通じて、岩手の健康長寿に役立ちたいとあらためて願っています。



佐藤 保 (さとう・たもつ) 53年生まれ。岩手医科大学歯学部卒。日本歯科医師会常務理事、県歯科医師会専務理事などを歴任。2015年から県歯科医師会会長、16年から日本歯科医師会副会長。佐藤たもつ歯科医院院長。盛岡市在住、同市出身。

県歯科医師会所属の歯科医師が、歯や口に関する身近な情報を紹介・解説します。毎週月曜日に掲載します。